知教労ニュース

発行　知多地方教職員労働組合（知教労）
〒475-0929 半田市仲田町1-18　Tel&Fax 0569-24-5216
HP:http://www.chikyoro.ikaduchi.com/ e-mail:chikyoro@oboe.ocn.ne.jp

全国教研「教育のつどい2013」が愛知：名古屋で開催！

3日間で延べ6000人が集まり 教育関係者や父母などが熱心に発表・討論

多彩な開会行事

「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい2013」は、全日本教職員組合（全教）や日本高等学校教職員組合、全国私立学校教職員組合連合や日本子どもをまもる会など27団体が主催する教育研究集会です。

開会全体集会は、愛知県高校生フェスティバル実行委員会の若さあふれる群舞で始まりました。その後、実行委員会からのあいさつ。「平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立、教え子を再び戦場に送るな」の大きなテーマを基に開かれた研究会であることが確認されました。次に「ぞうれっしゃがやってきた」の合唱劇が、作曲者の藤村記一郎さんの指揮で行われました。戦争の後、東京の子ども議会で東山動物園へゾウを見に行こうと話し合われた実話を基にした合唱劇です。舞台いっぱいの演者の中で、小さな子どもたちが体全体を使って歌う姿が印象的でした。

【ゾウ列車の合唱】

記念講演は椎名誠さんの「風の中の子どもたち」。自分の子どもや青時代のんちゃな思い出、文化による考え方の違いを知っておくために外国へ行って感じてくることの重要性、日本で子どものアレルギーが増えていることへの問題提起など、数多くの経験から得られた知見をもとに話されました。

【講演する椎名誠さん】

開会全体集会には1800名の参加でした。

その後、3会場に分かれて教育フォーラムが、開かれました。「安倍『教育再生』で子どもと教育はどうなる？」など憲法、いじめ、体罰など8つのフォーラムが開かれました。パネリストには教員だけでなく、父母、学生、地域住民など多彩なメンバーが登壇しています。会場からも数多くの発言があり、深みのある話し合いがなされました。知教労からもパネリストでの参加がありました。

子どもたちの成長を支援するなど350ものレポート

2日目と3日目は、名古屋大学での分科会です。教科の分科会や「幼年教育と保育」、「ジェンダー平等と教育」、「子どもの人権と学校・地域・家庭」、「登校拒否・不登校の克服」、「国民のための大学作り」、「子どもの貧困に向き合う」など、2つの特設分科会も含めて30の分科会が開かれました。各分科会では日本全国から多数のレポートが出され、活発に話されました。レポートの内容に応じて小・中・高などの学校種別に分かれた分科会もありました。

中学生が保育園での実習を通して、父親との関係や他人に対する荒れた姿勢に変化を起こし、自分の進路を決めていく島根県の報告。授業妨害や校内暴力で荒れた高学年の学級に2年間根気よく取り組んで改善していった高知県の報告など、各県で選ばれたレポートにふさわしく、多面的な視点と深い洞察がみられます。教員になったばかりの若い先生が熱心に報告を聞き発言する姿も見られました。

愛知県の小中学校からも13本のレポートが出されました。愛教労の畦地議長は、「スポーツと暴力」というテーマで、勝利至上主義ではなく、指導者として、何のために、何に気をつけてクラブ指導をするかを部活動と比較しながら分析したレポートを報告しました。

閉会にあたり、実行委員会は「学び、語ろう、憲法―憲法と子どもの権利条約が生きて輝く教育の実現を」とのアピールを発表しました。アピール文には、「子どもの声を聞き取り、願いを受け止める実践『子ども理解』の大切さが確認されました」と記されています。毎日の教育実践を向上させるためにはどのような視点で行うべきか、自分の活動を見つめ直させられた3日間でした。

北から南から　～支部だより～

本年度も5市5町の、「割り振り変更」と「出勤退勤時間」がどのように記録され運用されているか、情報公開制度で実態調査を行いました。ここでは、武豊町の4小学校、2中学校の実態について報告します。

まず、勤務時間の割り振り変更についてです。全ての学校で割り振り簿があり、修学旅行・林間学校、職員会議・交通当番・指導部会・学年会などが割り振り変更の対象になっていました。他には、主任者会・就学指導委員会・水かけ当番・水辺クリーンアップなど各校の実態に合わせて割り振られていました。また、交通教室の準備（朝6:30～2時間、8日分）などが割り振り対象という、進んだ学校もありました。また、割り振り分の消化状況では、どの学校も夏休み中に消化しきるということで実施されていました。しかし、衣浦小学校は去年は記入されていたのに、本年度は用紙はあっても全員未記入でした。管理職の怠慢です。もちろん夏休みでの割り振り消化もありません。

次は、出退勤時間の記録簿についてです。4月に100時間を超える勤務をした職員は、小学校で5人、中学校で12人いました。80時間超では、小学校で33人中学校で40人でした。昨年度と比べると80時間超が増えていました。

武豊町は学校数が少ないことや教育委員会の協力もあり、歩調を合わせてやりやすく進んだ町ですが、昨年より後退している学校があるのは残念です。今後も、割り振りを確実に行う、超過勤務を減らすなど改善に向けた運動を進めていきます。　（S）

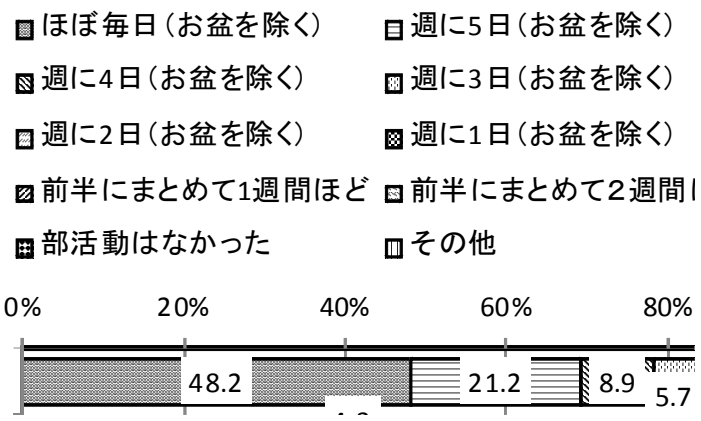
みんなの目

八月六日、九日、一五日。「戦争は、いや」の思いを改めて心に刻んだ八月である▼書店で平積みされていた「永遠の0（ゼロ）（百田直樹著）」が目に留まる。「必ず生きて帰る」と心に誓う戦闘機（零戦）乗りにまつわる感動的な話だった。その中で、日本がまだ勝ち戦を誇っていた頃でさえ、多くの未帰還機（もちろん操縦していたのは将兵）が出たことを改めて知る。戦局が日本に不利になり、若き兵士たちを帰還0の特攻に「志願」させたのも戦争、いや人間の所行だ▼「最愛の大地」というボスニア・ヘルツェゴビナ紛争を扱った映画を見た。捕虜へのレイプがまかり通り、パンパンという、乾いた銃声の先で罪なき多くの人々が殺される。一九八四年に開催されたサラエボ冬季オリンピックより後のことだ▼松江市では、市教委の指示によって小中学校の図書館で子どもたちが「はだしのゲン」を手に取って見られないようにした。多くの人々から疑問の声があがり、撤回されたが、描かれた日本軍の残虐行為が不適切とのことだった。現在九十才を越える元兵士の方々が、それらの行為の事実を勇気をもって証言してくださっている▼戦争のない平和な社会を築いていく上で、戦争の実態を学ぶこと、知らせることはきわめて大切なことである。教員として社会人として、小さなことでも自分のできることから取り組んでいきたい。　（T）

データで見る『教員の実態』第41回
『約７０％』

皆さんは知多以外の地区でどれくらい部活動が行われているのか興味がありませんか。今回は、昨年ベネッセが中学生・高校生の保護者を対象にオンラインで行った『夏休み中の部活動の実施状況』の結果を紹介します。昨年の９月、1479 名からの回答をもとにしています。

【図１　夏休みの部活動は、どのくらい実施されていましたか？】



運動部では“ほぼ毎日”と“週に５日”を合わせると、約７割もあります。複数の顧問が交替で指導しているとしても、部活がほぼ毎日あるということは、たいへんな負担であろうと想像できます。

保護者に聞いたアンケートのまとめですので、我が子がいかに頑張っているのかも併せて紹介しています。しかし、子どもたちの休憩する権利や自由に過ごす時間の大切さを指摘は、ありません。また、担当する教員の長時間労働への視点もありません。この部活の状況が当たり前で育った教員にとっては、納得できる数値になっているのかもしれません。

次回は、同じ調査から部活動の時間についてお伝えします。

知ってるつもり・Ｑ＆Ａ

日本のパートタイマーの労働環境は？

Q　教員を退職した妻がパートタイムで働き始めました。先日、ラジオで「日本のパートタイマーは、労働条件の面で欧米の制度より劣悪な環境におかれている。」という放送をしていました。具体的にどのように違っているのですか。

A　日本では、この20年間に非正規雇用の労働者の割合が急激に増加し、現在では約30パーセントになります。その中で大きな割合をしめるのがいわゆるパートという雇用形態です。これは、安価な労働力と雇用の調整弁にすることができるという理由です。

国際労働機関（ILO）は1994年に、非正規雇用者の権利の保障のため、『パートタイム労働に関する条約』を採択しました。ILO第175号で、パートタイム労働者の労働条件がフルタイム労働者と少なくとも同等になるよう保護することが決められています。また、団結権、団体交渉権、労働安全の待遇を進めることを促進しなければいけません。社会保障制度、母性保護、年次有給休暇、疾病休暇に関してフルタイム労働者と同じ条件を与えることになっています。

残念ながら日本はこの175号条約を批准していません。また、アメリカも批准していませんが、アメリカには「同一労働同一賃金」の考え方が日本より進んでいるため、日本のように、正規雇用とパートタイマーの賃金に大きな差がでるということは起こりにくくなっています。

こうした中で、日本でもパートタイム労働者の権利意識の向上がみられ、厚生労働省の調査では、平成24年度パートタイマーの労働組合員数は83万7千人で、前年の77万6千人から大きく増加しています。

平和の鐘はこうしてつかれた　～ 8月6日 武豊町皆満寺（かいまんじ） ～

今年も各地で平和の鐘をつく行事が行われました。今回は、武豊町の皆満寺で行われた平和の鐘についてレポートします。

皆満寺は、武豊町にある真宗のお寺、毎年ここで、武豊九条の会が主催する平和の鐘がつかれています。8月６日、8時前から三々五々人々が集まり始めました。

【受付には多くの人が】

最初に、武豊九条の会代表世話人が、「原爆とあらゆる戦争犠牲者の冥福を祈って鐘をつきましょう。」とあいさつ。そしてラジオの8時15分のサイレンに合わせて鐘つきが始まりました。「最初の鐘は、未来に生きる子どもたちの手でつこう。」という趣旨で、子ども3人が住職の永尾圭吾さんと共につきました。

【最初の一つきは子どもたち】

そして、お寺に集まってきた人たちが、列をつくって鐘つき台に並びます。おじいさんやおばあさんは若い人に支えられ、赤ちゃんはだっこされ、車いすに乗った人は周りの人にサポートされ、一人一人の思いを込めて鐘をつきました。

【工事現場からもかけつけた】

鐘つきが終わると参加者は、本堂に移動。ここでは、この会に合わせて『平和の絵手紙展』が開かれています。そこで、地元の愛好家による、アコーデオンやオカリナの演奏を聞いたり、みんなで懐かしい歌を歌ったりしました。最後に、広島への原爆投下を題材にした新藤兼人監督の「原爆の子」を鑑賞してこの行事を終わりました。武豊九条の会では、「来年も平和の鐘つきを予定していますので、参加をお願いします。」とよびかけています。また、武豊町では、役場で原爆写真展も行われました。平和を守る小さい取り組みが、多くの人たちの協力で行われていることにとても力づよく思いました。

【順番を待つ多くの参加者】